

平成24年度 林業専用道技術者研修（九州ブロック第3回）

場 所：熊本県八代市 八代市厚生会館

期 間：平成24年10月9日～11日 3日間

参加者：県職員12名、市町村職員7名、森林組合職員3名、森林管理署職員9名 計30名

○開講に当たり、九州森林管理局の山部森林整備課長から、「林業専用道は、壊れにくく森林施業に使い易く、加えて開設コストの低減を図って行くことが必要です。木材の搬出コストをいかに抑えるか、それには林業専用道が不可欠であります。

短い期間ではありますが、林業専用道の考え方を身に付け深めて帰って頂きたい。

この研修が有意義な研修となることを祈念します。」との挨拶がありました。



○研修運営委員の東京大学大学院の酒井教授から、「森林・林業再生プランで人材育成は大きな課題であり、各種の研修事業が血の通った研修にするにはどうしたらよいか、委員が分担して同行しているところです。どうやって林業専用道を育てて国産材時代を迎えるか意識を持って道づくりに取り組んでほしい。」との挨拶がありました。



○オブザーバとして参加の林野庁国有林業務課の両角企画官から、「実際の研修に参加して問題点や課題に取り組みより良い研修にして行きたいと考えています。」との挨拶がありました。



【1日目】

1. 講義

研修の最初は、九州森林管理局の山口講師より「新たな路網の整備について」として森林・林業再生プランの概要のほか、路網整備の考え方や林業専用道作設指針の内容を中心として、講義が行われました。



2. 現地研修の準備

現地研修の準備として、

- ①既設の作業道を林業専用道として開設する場合の見直すべき点
 - ②新たに林業専用道を開設する場合の線形の検討
- を設計図書や原図、写真を用いての検討を5班に分かれて行いました。

(各班での検討状況)



1班



2班



3班



4班



5班

【2日目】

現地研修

(1) 既設作業道の「1444 作業道」を踏査して、林業専用道として新設する場合の改善点等の検討を行いました。

① 線形の検討



(切土高を抑えられないか、線形について検討)



(波形勾配について検討)



(森林作業道の接続位置や集積土場等について検討)

② 工種・工法の検討



(沢部の洗越工や表面排水の横断溝では、施工位置や工法などの検討)

③ 既設作業道での研修生からの主な質問

- 起点～100mの勾配は12%であるため起点位置を上げたほうがよい。
- 路面の排水処理が不足している。
- 洗越工の法面部は現地材利用で転石積がよいのではないか。
- 洗越工のセンター位置はよいか。
- 中間土場は材積込みを考えフラットがよいのではないか。 等





各ポイントで設計や作業システム等に関する助言をいただいた。

(運営委員の酒井教授)

(2) 完成している林業専用道「庵ノ山 1447 林道」を踏査して、線形及び設計上の留意点等を検討しました。また、講師から新設ルートを選定上のポイントの説明や森林施業の概要説明が行われました。

① 線形の検討



(進入口や傾斜を確認して通過ポイントの確認)



(森林作業道の接続箇所等を検討)



(切土高や転石群の回避を検討)

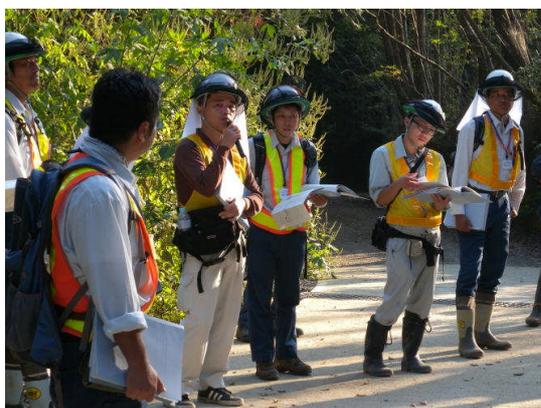
②排水処理の検討



(排水処理について検討)

③ 1447林道での研修生からの主な質問

- 残土を少なくすると土が足りなくなる場合があるが、どう考えているのか。
- 簡易横断工の流末処理が小さいのではないかと。
- 簡易横断工のゴム版が埋まるので対策が必要ではないかと。
- 横断溝と法面縦水路(フリーム)は同断面でよいのではないかと。
- 法面が高い箇所は保護が必要ではないかと。 等



【3日目】

1. 現地研修の取りまとめと発表

(1) 1日目の図上検討と2日目の現地踏査の結果をもとに最終路線を取りまとめ、各班発表を行いました。

① 各班での最終取りまとめ



② 各班の発表

図上で検討した線形と現地踏査により見直した線形について、修正した点や通過ポイントの説明が行われました。図上の検討と現地踏査によって、各班、より地形のよい箇所を通過する線形となり、コスト面や森林施業など総合的に検討した発表となりました。



③ 各班の発表に対する質問

研修生から、各班の発表に対して起点、通過地点、終点の考え方や森林作業道の接続等についての質問が出されました。



2. 設計の振り返り

森林テクニクス熊本支店の辻本講師により、研修の振り返りとして林業専用道の設計のポイントなどについて講義を受けました。



3. 総括

研修を振り返り、研修運営委員の東京大学大学院の酒井教授とオブザーバの林野庁国有林業務課の両角企画官から、

1. 完全な道はない、PDCA サイクルでさらに良い道に努める
 2. 発注者としてよい路線計画に努める
 3. 工事で分かるものもある一施工管理を万全に
 4. 下流部に対して特に水処理に注意を
- 等の総括がありました。

研修生の皆さん

